

■ウズベキスタンの子どもたちのための教育支援 小池 敏朗

1999年11月 当時ウズベキスタン フェルガナ県に赴任していた日本人技師がここで迎えた退職を機に この地域の子供たちのために その時通訳として働いていたウズベキスタン人と一緒に創設した日本語教室が時間の経過と共に消滅の危機にあることを知ったのは2010年の終わりでした。熱心に日本語を勉強している子供たちの姿に感激し 子供たちのために再び日本語教室をよみがえらせようと思い立ち、2011年からTIFAの協力を得て現在まで、リシタンにて日本語教育の活動を続けています。



2013年の夏には夏休みを利用して10才の時から4年間日本語の勉強を続けている男子中学生を豊中に連れて来ました。1ヶ月足らずの短い期間でしたが地区の小学校で受け入れてもらい 日本人の小学生と交流することが出来ました。2014年の夏 再度来日し老人介護施設で御年寄の介護体験と TIFA 子どもキャンプに参加してより一層の成果を得ることが出来ました。2015の夏には3度目の来日となり高校生となった彼ともう一人14才の男子中学生を連れて来ました。13才14才という年齢は見るもの 触れる物は何でも関心があり多くの物を吸収しようとする年齢です。一つ一つに感動する様子にこちらも身が引き締まる思いです。



今後の目標は 日本の小中学生をウズベキスタンに連れて行き 現地の子どもたちと交流する異文化理解体験ツアーを実現したいと考えています。

リシタンの日本語教室訪問記 上田 穰

大学時代の友だち3人と、なぜリシタンの子供が熱心に日本語を学ぶのか、理由を知るために教室を1週間訪問しました。到着初日に「第11回フェルガナ地方日本語弁論大会」が開かれ審査員にされてしまいました。多分12-17歳の5人の弁士が流暢な日本語で非常にしっかりした主張をされるのにびっくりさせられました。彼らの日本語に外国人特有の訛りがありません。素人でわかりませんが、トルコ系言語で共通しているのかと思うほどなめらかです。

教室に通ってくる子供は8歳ぐらいから20歳のお兄ちゃんまで。レベルはバラバラ。15歳前後が比較的レベルが高いです。日本語を学ぶ最大の理由は先進国の日本に対する憧れであると思われます。彼らの期待に応えるのは非常に難しい問題で、宿題として持ち帰りました。



女性たちの幸せと、子どもたちの教育のために TIFA 世界の女性と子ども支援基金

TIFAの国境を越えた活動へのご支援をよろしくお願いいたします。ご協力いただきました皆様にはニュースレタ一等で活動報告をお届けいたします。

【送金先】 郵便振替 口座番号 00910-8-308062

加入者名: TIFA世界の女性と子ども支援基金

※ゆうちょ銀行以外から送金される場合は事務局にお問合せください。

連絡先: NPO法人 国際交流の会とよなか (TIFA) 事務局 TEL/FAX 06-6840-1014

〒560-0021 大阪府豊中市本町3-3-3 メール: tifa99@nifty.ne.jp ホームページ: http://tifa-toyonaka.org/

平素より TIFA の国際協力活動にご支援・ご協力をいただきありがとうございます。各プログラムからの近況レポートをお届けします。

■ネパール・ドダウリ村プログラム 葛西 英紗

ネパールの東部シズリ郡の東端に位置するドダウリ村への支援をはじめた20年前は、共同井戸でトイレもなく、電気もないので暗くなればろうそくか灯油ランプの生活で、自給自足で食べるのがやっとの状態でしたが、20年間支援を続け、今では、トレーニングセンター、診療所ができ、1日の2/3は停電ながら電気も来て、井戸、トイレもでき、近くにいろいろな店もできて家の中だけで働きどおしだった女性たちもトレーニングセンターに来て収入を得、家族の中の地位も少しずつ上がってきました。

キルト製品の技術指導と販路開拓

9月21日より現地へ行き、キルト製品作りのアドバイスとインターネットを活用して販路拡大をする準備をしました。送料節約のため50枚ほど持ち帰り、日本で販売し売り上げを現地の作り手に渡す予定です。皆様のご協力をお願い致します。

学校へ行きたい子どもの教育支援

貧しくて学校へ行くのは難しい子どもを助けようと奨学金支給プログラムを始め、1年経ちました。1か月¥2,000 1年間 ¥24,000をお願いしています。支援者のみなさま誠にありがとうございます。現地へ行くたびに支援をしている子どもたちに会って様子を見ていますが、当初出会った時に比べて明るくなり張り切って学校へ通っており、先生からもよい報告を受けています。

4月末の大地震で校舎が被害を受けましたので、救援募金から修理費をRs. 200,000 (約¥240,000) 出金し、勉強はできるようになりましたが、まだ支援の必要な子どもが出ておりますので、お願い出来る方がありましたらご協力をお願いします。



ネパール地震緊急募金へのご協力ありがとうございました!

皆様から9月末までに寄せられた募金額は計1,307,146円にのびりました。おかげさまで、各活動地において下記の緊急支援を行うことができましたのでご報告いたします。心よりお礼申し上げます。これからは現地の人々に寄りそった復興支援活動をすすめてまいります。

●ドダウリ村 (NGO・HANDS)

医療キャンプ2か所 (ドラガ、シンドウパルチヨーク) ラムシャネキ小学校改修 薬、ビニールシート、トタン、被災家庭への見舞金

●自立会ネパール

サクー村被災者へのテント代、生活費補助 シツ小学校区 民家への送水管設置 スタッフの作業費、手当、交通費等

●ラメチャップ、パタン緊急支援

シートや米の配給、炊き出し プンガマティ仮設住宅のトタン購入

●シズリ「子どもの家」

地震による滞在期間延長分の生活費



HANDSの医療キャンプ



サクー村での被災者支援



プンガマティでトタン支援



パタンでの炊き出し

■ネパール自立会（サク—村農村女性の自立支援活動・教育支援活動）

島本真知子

地震後の重点課題として、①働きやすい作業所の確保。 ②ダカ織りの技術向上と、PR 活動。  
③山間部の学校の給食支援。 ④山間部の学校の給食支援。 ⑤山間部の学校の給食支援。 ⑥山間部の学校の給食支援。  
TIFA 自立会として当地と二人三脚で、復興に向けがんばっています。  
以下、地震後の7月訪問時と10月の当地からの情報をビジュアルでご紹介します。

【作業所の女性たちの様子～最新版～】と【仮小屋での給食風景】



- ① 彼女（ビヌ）作業所から1時間のところに住んでいます。祖父が地震で亡くなりました。今トタンの家に住んでいます。早朝に起き、畑仕事に行き、その後センターへ来て、4時半まで働いています。
- ② 彼女（プラミラ）も、トタンの家に住んでいます。とても貧しい家族です。2人の姉さんがいます。
- ③ 彼女（スバデラ）はジョルパテに住んでいます。実家はカトマンズ郊外です。家族の職業はダカ織りです。彼女は、7歳の時から織を始めています。（センターに来て、アドバイスをしてくれています）。
- ④ 地震直後の7月に訪問した時に集まった村の女性たち ⑤仮小屋（シツツ区）で給食をとる幼小組。

【里親さんと共に進めるウグラタラ中等学校支援—里子さんの様子】



- ① 7月22日雨の中近くのお寺まで教頭先生と来てくれました。元気な姿にほっとしました。
- ② 地震で、汚れた制服を新調しました。新しいかばんを背にっこりと。
- ③ 地震後の今、欲しい物を書いてもらいました。地震前に書いたレポートに追加して書きました。「上着、傘、くつ、文具」を書いていました。古い物でもいいから持っていこうと思います。
- ④ スニタの家は全壊し、父親の介護で不登校気味。私服で仮設小屋から来てくれました。
- ⑤ 休んでいた里子さんに、別の日、制服とかばんを渡してもらいました。

■パタン女性と子ども支援プログラム ～サナチャタナ小学校の教育支援

海野バティ

2014年12月からパタンのはずれにある公立小学校の支援を始めました。  
この地区はドビガというアウトカーストの洗濯を職業にする人たちが住んでいた地域です。最近の内戦時代に地方から避難してきた人々が移り住んでいます。

この学校は1年生から5年生の子供たち132人が通っており、運動場もなく敷地に校舎が立っているだけの学校です。親の多くはお手伝いをしている家庭が多いです。子供たちも学校に行く前、学校から帰ってからお手伝いとして雇われ、家計を助けていることが多いです。

始めは文房具の支援を行いました。その時に校長先生から生徒たちの話を聞きました。貧しい家庭の生徒たちは空腹を癒すために学校の前にある共同水場の水を飲みます。この水は湧水で飲料には適さず健康には良くありません。校長先生は生徒たちの健康を考え、文房具の支援より給食の支援要請がありました。現在、週に1回給食の支援を行っています。調理は生徒の親が来て作ってもらっています。下記の写真は8月に訪問したときの写真で、日本と同じように生徒が生徒たちに給食を配っています。

また、サッカー道具の支援を行いました。歩いて20分ぐらい離れた空き地に行き、サッカーウェアとサッカーボールを寄付すると地震で沈みがちな表情が笑顔であふれ、生徒さんたちは久しぶりにエンジョイしたようです。校長先生たちも大変喜ばれていました。



学校前の共同水場 給食 空き地でのサッカー

今後の支援として、学校給食の充実を図りたいと考えています。また、震災後の心のケアが必要と感じています。

復興支援の  
ピースアクセサリー

壊滅的な被害を受けた古都・パタンの女性たちが「パタン・パリアル（家族）」というグループを作り、ビーズのブレスレットやネックレスの製作を始めました。  
ビーズはネパールの女性にとって神聖なもの。ブレスレットを購入いただくことで、ネパールの女性たちの生活をささえることができます。  
おしゃれでありながら、ネパールの支援もできると好評です。カフェ・サパナにて販売していますので、ご協力お願いいたします。



子どもの家 HAPPY GIRLS HOME ～孤児の女の子を守り育てた16年

ネパールでは1996年から10年間、激しい内戦が続き、多くの孤児が発生しました。特に幼い女の子には悲惨な行く末が待っていることが多いため、シェルターとしての孤児院を現地の人と協力して1999年に設立しました。子どもの数は一時期20人を越えましたが、内戦終了後は徐々に減っていきました。設立10年を経た2009年には、現地の運営委員とTIFAが話し合いを重ね、運営を現地主体とし、TIFAは側面から支えることとしました。

子どもたちは共同生活の中でよく学び、よく働き、卒業生の中には勉学に励んで看護師や先生になった子もいます。女性の識字率が低いネパールの田舎で、10年生までの教育を受けたことは一生の財産になることでしょう。

内戦終結から8年を経た2014年、ネパール社会もだいぶ落ち着いて来たことから、シェルターとしての施設運営を終了し、個別の支援に切り替える準備を始めました。この時点で残っている子どもは9人。スタッフや先生の協力も得て、親戚等

に連絡を取り、全員の行き先が決定。2015年4月の予期せぬ大地震の影響で2ヶ月遅れとなりましたが、無事全員がそれぞれの家庭での生活をスタートしました。今後は里親の皆様のご協力により、個別に必要な応じた教育支援を続けてまいります。16年の間お世話になった皆様ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。（筒井百合子）



1999 スタート当時



2004



2008



2013



2015



ビマルさん ベッチューさん



2011



2015